令和４年(2022 年)12 月 23 日（金）
公益財団法人 広島平和文化センター
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館　副館長：上村
電話：543－6271
担当：橋本

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館　令和５年企画展

「空白の天気図－気象台員たちのヒロシマ」の開催
元広島地方気象台関係者の遺影登録
企画展示室の全面リニューアル について

当館では下記のとおり、令和５年企画展として「空白の天気図－気象台員たちのヒロシマ」を開催します。また、これにあわせて、新たに６名の元広島地方気象台関係者の遺影を登録・公開しました（別紙参照）。

さらに、今回の企画展から次頁のとおり、企画展示室を約 190 インチの大画面を持つシアター空間に全面リニューアルし、視聴効果を高めます。

記

１　企画展の会期および開催場所

期間　令和５年（2023 年）３月 15 日（水）～令和６年（2024 年）２月 29 日（木）

場所　追悼平和祈念館 地下１階　企画展示室

２　企画展の内容

1945 年８月６日、原爆は広島市に甚大な被害をもたらしました。爆心地の南方約 3.7ｋｍに位置する広島地方気象台でも、爆心に面した窓ガラスは割れ、職員の中には重傷を負うものが少なくありませんでした。

その状況下でも、「気象観測を担う者は、現象についての時間的な変化を絶えず記録しなければならない」と、最新の気象データを中央気象台へ電報で伝えようと、３名の若手台員が市の中心部へ向かいます。しかし、そこで彼らが目にしたのは、まさに地獄絵図と呼べるものでした。

さらに、被爆後わずか１か月後に広島を襲った枕崎台風は原爆被害をより深刻なものにしました。気象台員たちはこの二重災害の被害を後世に教訓として伝えるべく、現地へ出向いて聞き取り調査を行い、貴重な調査報告書にまとめました。

今回の企画展では、観測者の視点から記録された被爆体験記をもとに被爆の実相を明らかにします。

なお、今回の企画展は、『空白の天気図』の作家、柳田邦男先生に監修をお願いしています。

＜展示内容＞

大型スクリーンに映し出す約 30 分の映像作品と、広島市江波山気象館が所有する資料等数点を展示します。

また、タッチスクリーンで、気象台員たちの被爆体験記約 20 編を閲覧できます。

3　企画展示室のリニューアル

来館者に体験記に遺る被爆の記憶をよりビジュアルに伝えるため、展示室のリニューアルを行います。

改装工事は、令和 4 年（2022 年）12 月 30 日（金）から令和 5 年（2023 年）3 月 14 日（火）の間。これにより、企画展のメインであるシアター映像を約 190 インチの大スクリーン（幅 4.2m×高 2.4m）で鑑賞できるようになります。

企画展示室完成予想図

4　内覧会のご案内

リニューアル完了後、企画展に協力いただいた方々や報道関係者等をお招きして、内覧会を開催します。当日は柳田邦男氏の講演会も予定しております。

※ 日時等詳細は次回プレスリリース及びチラシでお知らせします。